

シンプルと多機能を両立 ボックスのバックパック

多機能であることはいいことだけれど、機能が増えると重さも増える。そのバランスは登山用具において永遠の課題といえるほど難しい問題。オルトボックスの製品は、そこを非常にうまいアイデアで両立している。

文◎森山憲一 Text by Kenichi Moriyama
写真◎熊原美恵 Photo by Yoshie Kumahara

進化するオルト

ピークライトの特征的機能



フロントパネルオープン

オルトボックスバックの特徴ともなっている、フロントJ字型オープン。どちらからも開けられるダブルファスナーで、荷物の出し入れがやりやすい。



取り外せる雨蓋とウエストベルト

雨蓋とウエストベルトは簡単に取り外すことができる。荷物が少なめでシンプルに背負いたいときは、こうすることでさらなる軽量化もはかれる。



背面ウールメッシュ

バックパックとしては初？ めずらしいウール素材の背面。さわってみると、化学素材とは異なるしっとりとしたやさしい感触で、素肌にも背負えるくらいの特徴は、まず、その独自かつきれいなカラーリング。ほかにないこの発色は、山で目を引くこと間違いなし。もうひとつは、シンプルに見えてその実、かなり多機能であること。ポケットやギアホルダーが随所に隠されていて、しかもそれがまた、ただ付いているだけでなく、実戦で使えるようにきちんと作ってある。このあたりは、機能性の高さで信頼を勝ち得てきたブランドならではのところ。今シーズンの新作やアップデートにも、それは十分感じられる。カタログスベックをにぎやかにするだけの機能は付いていないのだ。



ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーが標準で付属していることもオルトボックスの特徴。ストレッチメッシュ製のバックのフロントに引っかけるだけで固定できる。



ピークライト30S

¥25,000
容量：30ℓ / 重量：1,020g / カラー：アクア
[ピークライト32]のショートモデル。背面長が短めの45cmに設定されており、女性や小柄な人に合うサイズになっている。機能は「32」と変わらない。

ピークライト32

¥25,000
容量：32ℓ
重量：1,050g
カラー：オレンジ
今シーズンのオルトボックス最新作。アルパインバックとトレッキングバックの機能をほどよく融合した汎用性の高いモデルで、今シーズンの注目モデル。

- ・フロントパネルオープン
- ・取り外せる雨蓋とウエストベルト
- ・背面ウールメッシュ
- ・ヘルメットホルダー
- ・アックスホルダー
- ・スキーアタッチメント
- ・ウエストストレッチポケット
- ・ウエストギアラック
- ・エマージェンシーカードケース
- ・内部アバランチギアホルダー
- ・ハイドレーション対応

トレッキング仕様の トラバースシリーズもさらに進化

こちらは昨年登場したトレッキングバック「トラバース」。トレッキングポールホルダーやレインカバーなどが標準装備で、背面も夏山を想定した仕様になっているなど、一般的な登山やハイキングに使いやすいシリーズだ。今シーズンは、新たに40ℓサイズが追加され、20ℓ、30ℓ、40ℓの3サイズから選べるようになった。さらに、継続モデルにも新しいカラーが登場している。



仕切りの生地を上押し込むだけで、2気室に早変わり。簡単かつシンプルなアイデアだ。



トラバース38Sのバック底面ファスナーを開けたところ。1気室で使うときはこうなる。



トラバース40
¥21,000
容量：40ℓ / 重量：1,390g
カラー：ブラック

シリーズ最大の40ℓサイズが登場。2気室構造で、テント泊装備も収納できる容量。背面長が短い「38S」もある。



トラバース28S
¥18,000
容量：28ℓ / 重量：1,030g
カラー：コーラルピンク、アクア

トラバース28Sには新色追加。「S」は、ショートという意味で、女性や小柄な人に合うよう、背面長が短めになっている。